

平成 29 年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者入試 B 日程 試験問題

刑事法系（刑法、刑事訴訟法）

解答上の注意

1. 問題冊子は、表紙を含め 3 枚である。
2. 問題には、問題 1 と問題 2 がある。配点は、問題 1 が 60 点、問題 2 が 40 点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は、問題 1 用と問題 2 用の 2 枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙 1 枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し、また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお、整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後、問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は、黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 試験終了後、解答用紙と貸与した六法を回収するので、指示があるまで席を立たないこと。
8. その他は、すべて監督者の指示に従うこと。

【問題 1】 以下の事例を読んで、X女及びY女の罪責を論じなさい（特別法違反の罪を除く）。解答用紙の冒頭に「問題 1」と記入すること。

【事 例】

X女は、知人であるV女に恨みを持っており、毒薬入りクッキーを食べさせてV女を殺害することを計画し、事情を知らないY女に毒薬入りクッキーを渡し「このクッキーはV女の好物だからV女に渡してきて。」と依頼した。その翌日の夜、Y女は公園でV女に会い、そのクッキーをV女に渡したところ、V女はその場でクッキーを食べて間もなく死亡した。

Y女は驚いたものの、X女の意図を察し、X女がそのクッキーに毒薬を入れたことで死亡したに違いないと理解した。Y女は、倒れているV女の横を見ると、V女が持っていたバッグがあり、その中を確認したところ、現金5万円の入った財布が見つかったので、これを遊興費に使おうと考え、その5万円を抜き取りその場から立ち去った。

《問題 1 以上》

《次頁に続く》

【問題2】 次の事例を読んで、設問に答えなさい。解答は、【問題1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題2」と記入すること。

【事 例】

ある日の深夜、覚せい剤の密売が頻繁に行われている路上をパトロールしていた警察官Kは、キョロキョロと周囲を見ながら意味不明のことをつぶやき、頬がやせこけるなど覚せい剤常用者によく見られる特徴があり、警察官の姿を見て視線を逸らすなど不審な動きをしていたAに対し職務質問をした。Kは、Aに対し、「所持品を見せてほしい。」と申し向けたが、Aはこれを頑なに拒んだ。Kはさらに「上着のポケットの中を見せてほしい。」と申し向けたものの、やはりAはこれを拒否した。そこで、Kは、いきなりAの上着のポケットに指を差し入れ、中に入っていた物を取り出した。その物は後に覚せい剤であることが判明し、Aは後に覚せい剤所持の罪で起訴された。

〔設 問〕 上記覚せい剤に証拠能力は認められるか。

《問題2 以上》
《刑事法系問題 以上》

【出題意図】

問題 1

本問は、間接正犯及びいわゆる「死者の占有」の論点の理解を問うものである。

問題 2

本問は、職務質問において違法に行われた所持品検査で採取された証拠物の証拠能力を問い、違法収集証拠排除法則の理解を問うものである。